

群 教 七	G02 - 02
	令3.278集
	社会 - 小

小学校社会科において、既習事項を関連付けて課題を追究することができる児童の育成

——蓄積したポートフォリオの活用と意見交流を通して——

特別研修員 鈴木 健之

I 研究テーマ設定の理由

群馬県教育委員会から示された令和3年度学校教育の指針では、多様な意見を共有、議論させることにより、児童生徒相互の思考力・判断力・表現力等を向上させることや、互いの意見を交流させることにより、児童が新しい視点や価値に気付き、よりよい表現につなげることで多様な考えを共有・深化させることが求められている。

また、本校の児童の実態としては、落ち着いた中で真剣に学習に取り組み、知識・技能を概ね身に付けている。しかし、常に学習内容に対してつながりや疑問をもちながら学習を進めたり、社会的事象の特色や相互の関連を考えながら学習に取り組んだりする児童は少ない。それは、学習内容をつなげる手立てが不十分で、児童の思考が1単位時間で完結してしまっていることが原因であると考え。

そこで、まず追究する過程で1単位時間の学習内容をポートフォリオとして蓄積・共有して、既習事項を基に課題に対する自分の考えをもたせる。最後にまとめる過程でもう一度既習事項を見直し、自分の考えをもった後で意見交流をして、単元に対する自分の考えを調整する活動を設定すれば、既習事項を関連付けて課題を追究することができる児童を育成できると考え、上記のとおりテーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

各単位時間の既習事項を関連付けて課題を追究するために、次のような手立ての実践を試みた。

手立て1 追究する場面での工夫

- ・各単位時間のポートフォリオを活用して自分の考えをもたせる

手立て2 まとめる場面での工夫

- ・ICT端末を活用した交流と振り返りの共有

手立て1では、教科書や資料集を活用し、各単位時間に共有ソフト上で班ごとに「分かったこと」や「気付いたこと」、「疑問に思ったこと」、「特に大切なこと」を、それぞれ色の異なる付箋に記入させて、それらをポートフォリオに貼り、必要な情報を整理しまとめさせる。ポートフォリオに貼られた付箋をグルーピングさせたり、線や矢印でつないだりさせたりしていくことで、歴史的事象を関連付けられるようにしていく。また、作成したポートフォリオを見直し、各単位時間の終末においても単元を貫く課題に対する自分の考えをもたせておく。

手立て2では、まとめる場面でまず蓄積したポートフォリオをICT端末を活用して見直してから、単元の課題に対する自分の考えを入力する。入力された考えを大型モニターや端末で一覧できるようにし、自分と同じ考えや違う考えを共有できるようにする。それを基に様々な立場の児童と交流をさせ、自分と他の児童の考えを比較させる。また、考えを交流した内容を参考にしながら、自分の考えを再考して深めさせ、深めた考えをワークシートに記入させる。最後に振り返りを共有ソフトに入力させて大型モニターや個人の端末で共有し、そこから新たな気づきが生まれるようにする。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 班ごとに協働してポートフォリオを作成させることで、友達と交流しながら多様な考えに触れることができた。まとめの記述からは多くの新たな気づきがあったことがみとれた。
- ポートフォリオを共有ソフト上に作成させることで、データの共有が容易になり、学習の振り返りがしやすくなった。このことにより、効率的に自分の班や他の班の学習してきた内容を比較・関連させながら思考を深めることができた。
- 追究の場面で蓄積したポートフォリオを活用させることで、多くの児童は学習課題と既習事項を結び付けて自分の考えをもつことができた。その意見を基にまとめの学習に臨むことができた。
- まとめでは、学習課題に対する自分の考えをもった上で様々な立場の友達と交流させることで、多くの児童が自分では気付かなかった新たな視点に気付くことができ、自分の考えをさらに修正することができた。

2 課題

- 追究する場面で資料から読み取る力や、必要な情報を判断することが難しい児童が見受けられた。1単位時間ごとのめあてだけでなく、より具体的な課題や調べる項目を提示した上で学習に取り組ませる必要があった。
- まとめる場面で様々な立場の友達との交流の場面では、交流の視点を「各政策の与えた社会的な影響」などに絞った方が単元の課題解決に迫るための交流になったと思う。
- 単元の振り返りでは新たな気づきだけでなく、新たな疑問なども考えられるようにすると次の学習へ繋がっていくと考える。

実践例

1 単元名 「江戸幕府と政治の安定」(第6学年 2学期)

2 本単元について

本単元は、江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を手掛かりに、武士による政治が安定したことを理解するものである。つかむ過程においては、江戸幕府が264年も続いたことを知り、どのような政治を行ったかを予想させながら課題設定をする。追究する過程では、気付いたことや分かったこと、疑問に思ったことなどを四人程度の班で共有ソフトにまとめていき、それをポートフォリオとして蓄積・共有をし、ポートフォリオを個人で見直して課題に対する答えとその理由を記述する。まとめる過程では、学習課題に対する自分なりの考えをもった上で様々な立場の友達と交流することで自分の意見を見直し、考えを深められるようにする。本単元では、既習事項を関連付けて課題を追究することができるように、次のように手立てを具体化した。

○「追究する」の過程で、「参勤交代」といった1単位時間ごとの課題について、共有ソフト上で班ごとにまとめていく形でポートフォリオを作成させ、それを蓄積・共有し、個人で見直しをさせることで課題に対する自分の考えをもたせるようにする。

○「まとめる」の過程で、最終的な自分の考えを様々な立場の友達との交流活動をさせて自分の考えを見直したり、交流活動後の振り返りを共有させることで新たな気付きが生まれるようにする。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	江戸幕府と政治の安定の学習を通して次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などへの幕府の政策、身分制を理解する。(知識及び技能) イ 江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を班でのポートフォリオ作成や話し合い・個人での課題解決を通して、関連付けたり総合したりすることで、世の中の変化の様子を考え、適切に表現する。(思考力、判断力、表現力等) ウ 江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとする。(学びに向かう力、人間性等)	
評価 規準	(1)①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を理解している。 ②調べたことを文やポートフォリオにまとめ、武士による政治が安定したことを理解している。(知識・技能) (2)①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見出し、江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制について考え表現している。 ②江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を関連付けたり総合したりして、江戸幕府の政策の意図や社会の様子を考え、適切に表現している。(思考・判断・表現) (3)江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)	
過程	時間	主な学習活動
つかむ	第1時	・徳川家康が、どのようにして江戸幕府を開いたのか調べる活動を通して、安土・桃山時代と江戸時代の年表を比較し、江戸時代がいかに長く続いたかを知り、その理由について予想する。
追究する	第2時	・主な大名の配置や幕府領と大名領の割合の資料を基に、どのような工夫をして大名配置をしていったのか。また、どのような場所を天領としたのかなどについて考える活動を通して、班ごとに自他の気付いたことや分かったこと、疑問に思ったことをポートフォリオにまとめる。
	第3時	・武家諸法度を定めたり、日光東照宮や江戸城をはじめとする江戸の町を整えたりすることで、将軍による支配が安定してきたことを調べる活動を通して、班ごとに自他の気付いたことや分かったこと、疑問に思ったことをポートフォリオにまとめる。
	第4時	・参勤交代という制度が、大名にどのような影響を与え、また、国の様子にどのような変化を与えたかを調べる活動を通して、班ごとに自他の気付いたことや分かったこと、疑問に思ったことをポートフォリオにまとめる。
	第5時	・武士以外の人々がどのような生活をしていただのかを調べ、幕府がどんな目的で身分制度をつくったのかを考える活動を通して、班ごとに自他の気付いたことや分かったこと、疑問に思ったことをポートフォリオにまとめる。
	第6時	・幕府によるキリスト教の禁止や貿易を統制するなどの海外との交流を制限する政策について調べる活動を通して、班ごとに自他の気付いたことや分かったこと、疑問に思ったことをポートフォリオにまとめる。
まとめる	第7時	・江戸幕府の諸政策に着目し、これまでに作成したポートフォリオを活用して根拠をもって考えたり、他の児童と交流したりすることで、江戸幕府が長期にわたり安定して支配することができた理由について、自分の考えを深め表現する。

3 具体化した手立てについて

本時は全7時間計画の第7時に当たる。ここでは単元の課題「江戸幕府が264年も続くことができたのは、どのような政策が効果的だったのだろうか」に対し、これまでに考えてきた課題に対しての考えを見直すために、共有ソフトに蓄積した第2時～第6時まで作成したポートフォリオを振り返る。さらに、特に効果のあった江戸幕府の諸政策について、既習事項と関連付けて見直した自分の考えを友達と交流してさらに修正していく。

手立て1 ポートフォリオの作成と蓄積を通して自分の考えをもたせる。(前時まで)

第2時～第6時の学習で、共有ソフト上で、班ごとに「政策の内容」、「政策を行ったことによる影響」や「疑問に思ったこと」などを付箋紙に書いてつないだポートフォリオを、単位時間に作成させる。それを蓄積していきながら単元の課題に対する自分の考えをもたせる。

手立て2 ICT端末を活用した考えの交流と振り返りの共有

第7時の最初に、単元の課題に対する自分の考えを見直す時間を設定する。次に各自の考えを共有ソフト上に入力させ、考えを交流させる。交流の1回目は自分と同じ政策を選んだ児童と交流させ、2回目は自分と違う政策を選んだ児童と交流させる。特に政策を選んだ理由について交流させる。交流した意見を基に、自分の意見を見直し、さらに自分の意見を練り上げさせる。最後に単元の振り返りを共有できるようにする。

4 授業の実際

(1) 手立て1 ポートフォリオの作成と蓄積を通して自分の考えをもたせる。(前時まで)

本単元の第1時では、江戸幕府が鎌倉幕府・室町幕府よりも長期に渡り、安定して政治を行っていたことを押さえた。そして、なぜ江戸時代が長く続いたのか理由を予想させた上で、単元の課題「江戸幕府が264年も続くことができたのは、どのような政策が効果的だったのだろうか。」を設定した。

第2時～第6時では江戸幕府が行った諸政策について、教科書や資料集をもとにICT端末を使用し、共有ソフト上で班ごとにKJ法を用いて目的別に付箋を色分けしながらポートフォリオを作成していった。付箋の色分けについては分かったことや事実は黄色、思ったことや感じたことは青、疑問に思ったことは赤、特に大切なことや大きく影響を与えたことは紫として使い分けた。このことにより情報の取捨選択や歴史的事象の因果関係を判断しながら学習に取り組むことができた。また、ICT端末上で他の班のポートフォリオを閲覧することができるので、他の班の意見も参考にしながら学習を進めていった。また、単元の課題に対しての自分の考えを、各単位時間の終末で既習事項を踏まえて考えさせておいた。

(2) 手立て2 ICT端末を活用した考えの交流と振り返りの共有

本時では、まずICT端末上で第2時～第6時まで作成したポートフォリオを再度見直し、これまでの学習の過程で考えた特に効果のあったと考える政策をワークシートに記入した(図1)。振り返る際に、「特に大切なこと」や「大きく影響を与えたこと」について書かれた紫の付箋に着目することや、他の班のポートフォリオを参考にしてもよいということを伝えて取り組ませた。児童は常に単元の課題を意識しながら1単位時間ごとの学習に取り組み、予め自分なりの考えをもった上で本時の学習に臨んでいた。本時はさらに、自他の班のポートフォリオを見直し、各政策が与えた影響の大きさについて改めて考え直した。なかには、ワークシートに一度自分の考えを書いたが、ポートフォリオを振り返り、悩みながら考えを変える児童もいた。



図1 自分の考えを記入する場面

次に、共有ソフト上に自分の選んだ政策と理由を入力させて、全員の意見を大型モニターに映し出した。児童は大型モニターを見ながら、他の児童がどのような考えをもっているかを確認した。

意見交流の場を2回設け、1回目は自分と同じ政策を選んだ児童と交流し、理由の違いを伝え合った。2回目は自分と違う政策を選んだ児童と交流した。どちらも選んだ理由についての交流としたが、児童たちは同じ政策を選んだ児童との交流では自分と異なる理由に触れたり、自分と異なる政策を選んだ児童との交流では改めてその政策の影響の大きさに触れたりして、自分の考えと常に比較しながら交流を行うことができた(図2)。さらに、交流した後に自分の考えを見直した。自他の考えを比較することで、自分の考えを更によいものにしようと練り上げている様子が見えた。最後に、単元の振り返りを集計ソフトで共有し、他の児童の意見に触れる機会を増やすことで、そこから新たな気づきが生まれるようにした(図3)。



図2 友達と意見交流する場面

- ・江戸幕府の政策はどれも効果的だったと思う。他の政策を選んだ人や、同じ政策を選んだ人の考えを聞くことができ色々な考えを取り入れることができた。
- ・同じ政策を選んだ人でも、自分とは影響についての考え方が違った。他の人が選んだ身分制や武家諸法度などの政策の影響についての考えも聞くことができてよかった。
- ・今までの幕府よりも厳しい制度や状況の変化に対応できたから長く続いたのだと思います。いろいろと幕府に都合の決まりがあって、よく考えてるなと思いました。結局考えは参勤交代のままでしたが、友達の考えを聞いて武家諸法度もかなり効果的だったと思いました。

図3 共有した単元の振り返りの記述(一部抜粋)

5 考察

自分の指導を振り返ると特に歴史的分野に関しては教師による説明が多くなりがちになり、児童は歴史的事象の関連を意識しながら学習を進めることが難しかった。そこで ICTを活用しながら、児童が課題に向かって追究できるような授業を構想し、教師は各学習過程で授業の支援者として取り組んでいった。課題設定のための資料提示や問い掛け、追究する場面では資料を基にしたためあての設定やまとめの支援、まとめる場面では児童が効果的に交流できるように授業の組み立てなどを行った。

児童は、資料から調べたことを基に、他の児童と課題に対する話合いをして、更に蓄積したポートフォリオを見直しながら課題解決をしていくことで、常に課題を意識しながら学習に取り組むことができていた。また、まとめの過程では友達と意見交流を行うことによって、新たな視点に気づき、自分もっていた考えが変容する児童が多く見られた。これは交流を通して自分が選んだ政策意外にも時代に大きく影響を与えた政策があったことに気付く、つまり歴史的事象それぞれが関連しているということに気付いたとも言い換えられる。今回の実践を通して、このような学習を継続して行くことで、歴史的事象を比較・関連付けながら課題解決に取り組む児童の育成につながると実感した。

今回、ICT端末を取り入れたことで、1単位時間の学習内容を簡単に振り返ることができた。さらに、他の児童の考えを素早く把握し、効果的に意見交流をすることで、効率よく学習を進めることができた。今回の実践は、課題を追究する学習や考えを共有する学習に効果的であり、学級活動や道徳といった他の教科でも取り入れることができると思う。児童が、単元を通じて既習事項との関連を意識しながら友達と交流し、単元を貫く課題の追究に取り組めたことも大きな成果であったと考えられる。

